

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0191300102), 法人名 (株式会社ケーサポート), 事業所名 (グループホームヤマキの家), 所在地 (北広島市中央4丁目7-5), 自己評価作成日 (令和5年11月15日), 評価結果市町村受理日 (令和6年2月28日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ5類になる前もコロナ禍の時も、例年通り季節を入居者様には感じて頂きだいたい毎月のように大小のイベントをしています。5類と言って原状回復しているわけではありませぬので、私たちが安全を確かめながら、外出もしている所です。今まで通り春は室内恒例の、いちご狩り今年も一杯食べました。夏のバーベキューは天候が暑すぎ各フロアで室内で焼肉・スイカ割り行いました。秋は仮装でのハロウィン職員も入居者様も仮装します。平岡に紅葉狩りに活きイタメン屋さんでランチしました。冬は車窓から雪まつりを見学に行く予定です。この他にも誕生会入居者様以外に職員の誕生も祝います。御家族様の面会がまだ時間制限がありますので、ゆっくりと御家族様との時間が取れない為、LINEで普段の様子を動画で送信したり会社の、ホームページに活動内容をupしています。ミニ外出(少人数)も御家族様より手厚くしてもらっていると好評でした。ヤマキの家が目指しているのは、入居者様・御家族・職員が家族のようになりホームを運営し、地域の方々とのつながりを大切にしていきたいと思っています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action\_kouhyou\_detail\_022\_kihon=true&JigyosyoCd=0191300102-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和6年2月5日)

事業所は、最寄りのJR駅やバス停から至近距離にあり、周辺はコンビニなど利便性ある地域に位置し、平成28年開設以来、地域や家族と良好な関係を築いている。コロナ禍により自粛していた外出は、利用者や家族の意向を踏まえ、日常的には事業所のおやつや食材を少人数の利用者と買い物や馴染みの店で食事、散歩で近所の方々や挨拶を交わしている。家族の外出支援も得られている。月に1~2回外出企画を立て、ドライブで四季折々の風景を見て廻り、その後は食事処に寄るなど利用者の五感を刺激し、職員との親密度もますます機会となっている。利用者は、合唱コンクールやニンジン漬、季節に因んだ作品作り、正月用の生け花、家事など、生活リハビリで持てる力を発揮している。職員は、その時々イベントに合わせた飾りの準備や、代表者や法人職員を巻き込んで雰囲気盛り上げるなどアイデアを生かし、利用者が安心して暮らせる環境作りに取り組んでいる。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼時理念参照し確認している。新入職員は、オリエンテーションにて施設理念を説明し理解出来るように努めている。	利用者が地域の中で安心して暮らせるための支援を理念に盛り込み、事業所の要所に掲示、毎朝の唱和、さらに会議で理念の実践を確認するなど、職員の共通認識を図っている。入社時に理念はケアの根本であることを説明している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で地域の方との交流が途絶えている状態になっています。朝のごみ捨てや回覧板を置きに行く時、町内会費の徴収の時に挨拶させて頂く程度になっています。状況を確認していきながら交流を戻して行きたいと思えます。	近所とは挨拶を交わし、介護相談には快く応じている。町内活動の花壇の苗植えに利用者に参加し、資源物回収に協力している。散歩中に小学校の運動会の練習光景を目にし、利用者は自然と笑顔になっている。	コロナ禍により中断になっていた、幼稚園や小学校との交流、清掃など町内会の活動に参加など、感染症を見極めながら地域交流の充実を検討しているの、その取り組みに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の活動に入居者様と参加して行きたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は開催しようとしている所で、職員家族・職員のコロナ感染、入居者様のコロナの疑い等かさなり秋の時点で開催出来ていない状態。ご家族様には開催行う旨報告しているので、早めに実施したい。	運営推進委員は、町内会の役員2名と行政関係者2名に加え、家族に参加要請を行っている。利用者や職員の現況、ヒヤリハットの事例、事故の因果関係と改善策、行事内容等を報告後に質疑応答が行われている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	北広島市高齢者福祉課に助言頂いたり相談させて頂いています。些細なことでもお聞きするようにしています。	運営推進会議は市役所の会議室を借りており、推進委員の行政職員とは事業所の実情を共有している。運営上の課題発生時は、適切な助言や指示が得られている。介護保険認定調査等で訪れる職員とは情報を共有している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	天気の良い時はなるべく、玄関前やテラスを開放しています。ご家族様とテラス越しに面会していました。時間制限なしですので、チェックリストの活用や、些細なことの事例で日々起こっていると認識させていた。	指針にある身体拘束廃止に対する理念に沿って定期的に適正化委員会や研修会を開催し、職員に周知徹底を図っている。職員は、チェックリストでケアの自己評価を行っているが、管理者は、温度差があるときは正しい理解に導いている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	些細な点が虐待に繋がる事、委員会で話し合い毎回理念や理念についてを参照している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前1名の方が制度利用されたとき学ばせて頂きました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は丁寧にゆっくり説明させて頂き、不安なく理解出来ているか確認させて頂いています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様は、少しでも外出させてとの声があります。少人数での外出で楽しんで頂いています。全員のおやつを買いに行ったり、漬物の材料を買いに行き皆で作ったりしています。	面会に制限ある中でも、家族とは都度電話で連絡を取り合い、個別や集合写真にコメントを付けて郵送している。ラインでの動画やホームページでも利用者の暮らし振りを伝えている。利用者や家族から出た外出の要望に応じている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から出た提案はほぼ実現出来るようにしたいと思っています。どんどん提案して欲しいと普段から話しています。	職員は、各イベントで利用者の心があたたかく、安らげるような意見や提案を出し合っている。職員の提案であるクリスマス会の合唱コンクールは、代表者が審査員になり、さらに職員の出し物にも参加している。管理者主催による職員の誕生日会は、利用者が感謝状を代読し、プレゼントを渡している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課が年に2回あり日頃の勤務状態、本人の目標の結果、会社の実績にて努めさせて頂いています。スキルアップの手助けもしており、研修制度も設けています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での研修を毎月行いスキルアップを望む職員には研修制度を設けて受講させています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北広島市内のGH部会でのzoomに参加し交流しサービスの向上に取り組んでいます		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様との信頼関係を築く為に焦らずに傾聴し、ふところに入って行くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談の段階から、ご家族様が困っている事等リサーチしています。実際にサービス開始に至る時には信頼関係が芽生えている事が多い。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	メンタルクリニックも必要な方には視野を広げ対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に生活している家族と思い、日々の生活を大切にしています。入居者様どうしの微笑ましい姿も見受けられます。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	タブレットを活用し、普段の活動の様子を動画に取りLINEでご家族に送信させて頂いたり、会社のホームページに活動内容を添付し多くの方に見て頂いています。請求書送付の時にも写真同封させて頂いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方と会う事が出来ないで、昔話を一緒にしています。	面会はテラス越しや多目的室で行われている。家族支援で墓参りなど外出の機会がある利用者や、職員の支援で馴染みのそば処や景勝地等に出かけている。持参の写真などから昔話を聞き出して関係性の維持に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士は常に会話ができる状態になっています。個人を尊重し共存できる関係作りに努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外出先で見かけた時は、声掛けさせて頂いています。ご家族様から声をかけて頂く事もあります。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネを中心に職員間で話し合い希望に近くなる事を提案させて頂いています。	職員は、利用者に常に問いかけ、外出などの希望を受けとめたり、涙み取っている。家族との面会要望には、介護支援専門員が連絡して来訪に繋げたり、電話で声を聞くことにより安心感が得られている。看取りへの意向も家族から伝え聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様より生活歴の情報を頂きケアに導入させて頂いています。入居後もご家族から情報頂きながらケアに努めさせて頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様には個人を尊重し生活して頂いています。フロア会議にて個人情報を確認しながら努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	自分らしく暮らせるように統一したケアを行っています。	ケアプランは、体調変化時や3か月から6か月ごとの定期見直し時に、内容の継続か新たな支援目標を設定するかを職員全員で協議している。利用者の要望や家族の意向を尊重し、主治医の所見や介護記録等も参考にして作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やヒヤリハットをもとにして介護計画に役立てるように努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアマネを中心に職員間で話し合い希望に近くなる事を提案させて頂いています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安心して暮らして行けるように地域資源を活用し安全に暮らしていただけるようにしていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族の希望を大切にし医療との橋掛けを行って行きます。納得がいかない時は適切な医療が受けられるように支援致します。	4か所の協力医療機関から月2回を基本に往診医が来訪している。他科受診は家族と協力して支援しており、受診時での状況は関係者と共有している。訪問看護師とは、週1回の健康チェックと24時間連絡体制を整備している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問診療を受けています。身体状態特変等相談報告し指示を仰いでいます。訪問以外でも特変があれば迅速に受けられるように支援致します。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には相談員と情報交換し退院時の受け入れがスムーズに行えるように努めます。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針を提示しています。ご家族の意向を聞きながら看取りの実施を行きます。現在数名のお看取りさせて頂いております。	利用者の看取りに関する意向は家族が聞いており、管理者に伝えている。適宜看取り研修を行っており、重篤時は主治医の指示を仰ぎ、利用者の意向に沿って尊厳ある支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルはあるが、研修までに至っていません。管理者に連絡が入り指示しています。今後指示なくても動けるように指導して行きたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	館内だけの防災訓練は行っているが、地域住民を巻き込む訓練はしていない。外国人が働いているので外国人の為の防災訓練は出席させて頂いた。	年2回、日中帯での火災を想定した避難訓練を併設の事業所と合同で実施し、入浴時などケア場面の対応も検討している。管理者から地震後に断水や停電になった場合の問いかけに利用者から提案があり、カセットコンロを使い即席の食事を作っている。	今後は、経験のない職員や夜勤専門職員を優先して、夜間帯を含む訓練の実施と、併せて火災や自然災害時避難場所の確認と家族への周知、地域との協力体制の強化に期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し言葉掛けは注意しています。	職員は、マナー研修で接遇の基本を学びケアに生かしている。管理者は、プライバシーを含め馴れと親しみの違いを職員に説明し正しい理解に繋げている。言葉遣いなどは、上司はもとより職員間でも注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ケアマネを中心に日常生活の希望自身で決定出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のも希望お聞きますが、決まらない時は職員から提案致します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床介助の時の今日の服装を決めて頂きます。定期的美容室が来ますので自身で髪形決めていきます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様から食べたい物のリクエストが出てきます。ほぼお寿司ですがなるべく皆さんの夢をかなえるようにしています。	食事は、手作りを基本にユニットごとに献立を作成している。外出行事は食事も伴い、イタメン屋、そば屋、和食処などに立ち寄っている。行事ごとの祝い膳や誕生日には、要望のちらし寿司を作ったり、出前寿司を頼んでいる。職員差し入れの大根で利用者が作ったニシン漬けが食卓に上がっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食のバランスは考え提供しているつもりです。しかし自宅と同じですので味は薄めで提供行う程度。水分は管理させて頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い誤嚥を防いでいます。個人の能力に合わせて介助行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は全員トイレでの排泄を中心に行っています。便意・尿意を大切にしています。	失敗があっても、日中は布下着の着用とトイレでの排泄を基本とするなど、残存機能の維持に努めている。衛生用品の使用時はアセスメントを行い、失敗の回数を確認し、試用期間を経てからとしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた排便コントロールにて医師と看護師の指示の元対応しています。薬ばかりに頼らなく乳酸菌・水分多めの対応も心掛けています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週に2回の入浴、朝から声掛けし心の準備して頂いています。	入浴は午前週2回を基準に、毎回湯を取り替え入浴剤を入れて支援しているが、無理には勧めないで利用者の意向に応じている。「ゆ」の暖簾を掛けた浴室で、利用者は歌や昔話、本音などを職員に聞かせており、ケアプランに反映することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は体力のない方は、静養して頂き他の方は、余暇活動・体操に参加して頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者様の服薬に対し理解するように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ケアマネを中心に入居者様一人一人の力を生かし支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	5類ですがコロナと同じ対応させて頂いておりますが、なるべく外に出れるように少人数対応での外出レクを行っています。	事業所で出すおやつやニシン漬けの材料等を利用者と一緒にお買い物したり、外食に出かけている。時には、ドライブで紅葉狩りや雪まつりを車窓から観賞する企画を立てており、四季折々を目の当たりにする機会となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居条件で小銭程度の所持と約束しています。ミニ外出レクでみんなのおやつを買いにいたり、食材を選んで買ったりしお会計はお願いしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の声が聞きたく電話している方もいらっしゃいます。クリスマスの際は今回から家族からのプレゼントとメッセージカード頂き読ませて頂く事になりました。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアは季節の飾りつけを行っています。皆さんで作成飾りを楽しみます。気温綺麗な空調に気を付けています。	利用者は居間で殆どの時間を過ごしており、職員は、ゆっくりと寛げる空間作りに努めている。ハロウィンでは、職員手作りの魔女スタイルやとんがり帽子、カボチャの帽子を被り集合写真を撮っている。ソファを用意し、少人数での居場所を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席の他にソファがあり好きな所に座っています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族が、お好みの部屋を作り使いなれた品物をセットしてくれます。	クローゼット付きの居室には、ベッドやテーブルなどの生活用品の他に家族写真やアルバム、自作の人形、カレンダー等が持ち込まれている。利用者それぞれが安心できる環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自身の部屋が解らない方には、扉に目印をつけて他の部屋に入らないように工夫しています。		